

# 平成25年度 交通バリアフリー教室の開催状況

## (1) 趣旨・目的

急速な高齢化や、障がい者の自立と社会参加の要請に適切に対応し、高齢者、障がい者等が、公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、施設整備（ハード面）だけでなく、手助けがしやすい環境づくり（ソフト面）の充実を図ることが求められています。

このため、心のバリアフリーを推進・啓発するための「交通バリアフリー教室」を開催し、高齢者、障がい者等に対する介助等の体験等を行うことを通じて、バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、高齢者、障がい者等に対し、誰もが自然に快くサポートできる社会の実現を目指します。

## (2) 交通バリアフリー教室の実施状況

中部運輸局管内における交通バリアフリー教室の開催実績は、平成14年度から平成25年度までの合計で195回、約14,300人の方にご参加頂き、心のバリアフリーの普及促進に向けた啓発活動を行いました。

年 度	開催回数	参加人数	年 度	開催回数	参加人数
平成14年度	2回	62人	平成20年度	23回	1,892人
平成15年度	3回	101人	平成21年度	18回	1,252人
平成16年度	4回	226人	平成22年度	29回	1,976人
平成17年度	8回	291人	平成23年度	29回	3,272人
平成18年度	19回	1,139人	平成24年度	21回	1,474人
平成19年度	20回	1,201人	平成25年度	19回	1,414人

## 平成25年度 バリアフリー教室の実施概要

中部運輸局において平成25年度に実施したバリアフリー教室は、管内で合計19回開催し、延べ1,400名超の方々に参加いただきました。

開催したバリアフリー教室の一部をご紹介します。

### 高年大学鯉城学園バリアフリー教室 【消費者行政・情報課】

開催日程：平成25年10月18日（金）

開催場所：中部地方整備局 中部技術事務所

主催：中部運輸局、名古屋市交通局

協力：向日葵ネット、中部地方整備局中部技術事務所、  
名古屋市社会福祉協議会

参加者：高年大学鯉城学園 福祉学科 42名

#### <実施概要>

生涯学習として福祉を学ぶ方々に対して、公共交通及び公共施設のバリアフリーについて知識・理解を深めるとともに、バリアフリー施設の利用や、車いす利用者への手助けの仕方について学んでもらう目的で教室を開催しました。



名古屋市交通局さんの「市バス・地下鉄のはなし」では、高齢者・障害者でも使いやすい公共交通としてバスや地下鉄を運行しており、どんどんまちに出掛けてほしいというお話がありました。

中高年中途障害者の団体の向日葵ネットさんからは、脳卒中により身体に麻痺が生じ車いす生活となった方から、普段の生活についてのお話いただきました。

その後、会場の中部技術事務所の外に出ると、バリアフリー体験歩道があります。スロープや歩道の段差などでの車いす介助の仕方を体験したり、ノンステップバスを使った車いすでの乗車体験を行いました。

### <受講者の感想>

- ・障害になられた方の体験を聞いて、ほろっときました。
- ・まちに出て、「お手伝いしましょうか」の言葉をかけてみたいです。
- ・段差のあるところでの車いすの使用は難しく、怖く感じた。
- ・バスの運転手さんの障害者の方に対する配慮に驚きました。乗客としても車いすの方へ配慮して協力できるようになりたいと思いました。
- ・敬老パスをどんどん利用したい。行動範囲が広がります。

## 交通事業者向けバリアフリー研修 【消費者行政・情報課】

開催日程：平成26年3月7日（金）

開催場所：名古屋市総合社会福祉会館 7階大会議室

主催：中部運輸局、交通エコロジー・モビリティ財団

協力：名古屋市社会福祉協議会、愛知県聴覚障害者協会、名古屋ライトハウス、AJU自立の家、ハート・プラスの会、名古屋手をつなぐ育成会、名古屋市精神障害者家族会連合会

参加者：中部運輸局管内の鉄道、バス、旅客船事業者

### <実施概要>

中部運輸局管内の交通事業者（鉄道、バス、旅客船）を対象に、バリアフリー研修を実施しました。障害当事者講師による座学・実技体験を通して、様々な障害のある方々への理解を深めると共に、接遇・介助についての基本を習得していただき、自社における教育訓練のレベルアップを目的として行いました。

前半は、バリアフリー法と接遇・介助の必要性と意義についての全体的な講義のあと、各種障害（聴覚障害、視覚障害、肢体障害、内部障害、知的障害、精神障害）ごとに、それぞれの障害当事者講師から、日常生活と移動についての講話をいただきました。

後半は、障害当事者講師から伺った話を意識しながら、アイマスク体験と車いす体験を行い、最後は、事業者と障害当事者を交えたグループディスカッションにて、学んだことをどう職場に定着させるか班別に発表し、まとめを行いました。





### <受講者の感想>

- ・ 障害当事者の生の声が聞けて良かった。
- ・ 声かけ、コミュニケーションの大切さが分かった。
- ・ 職場に持ち帰り、自社で問題を検討したり、自社教育のなかで今回の研修内容を活用したい。
- ・ 障害者側意見に偏りすぎている面もあるようにも思った。障害者の声がその他のいかなる事象にも優先されるべきものであるかのような議論になりがちなので、バランスが必要であると思う。



開催日程：平成25年11月15日（金）  
開催場所：沼津市立開北小学校  
主催：静岡運輸支局、沼津市、沼津市社会福祉協議会  
協力：富士急シティバス(株)、静岡トヨペット(株)  
参加者：沼津市立開北小学校4年生 68名

### <実施概要>

沼津市立開北小学校4年生を対象にバリアフリー教室を実施しました。

全盲で盲導犬を帯同して生活している杉山さんより、まず一声掛けてもらえると助かるということや、盲導犬に対する注意・お願いなどのお話がありました。

その後、体育館と校舎のなかで、アイマスク体験、車いす体験を行いました。校舎の外では、ノンステップバスと自家用者の福祉車両の説明とデモンストレーションを行いました。



### <受講者の感想>

- ・ノンステップバスは、バスが傾いたり、車いすで乗ることができるよう扉の幅が広がっていたり工夫されていることが分かった。バスに乗るときは、優先席には座らずに後ろの席に座るようにしたいです。
- ・アイマスクをしたら前に何があるか分からないためとても怖かったです。ペアの人が「左に曲がるよ」と言ったり、「右に曲がるよ」と言ってくると、とても安心できるんだなと思いました。
- ・福祉車両についてですが、体の不自由な方のために座席が動いたり、普通の車でいうトランクの部分が坂（スロープ）になっていたりしていて、これこそやさしい車だと思いました。

## 関市立 田原小学校 【岐阜運輸支局】

開催日程：平成25年10月31日（木）  
開催場所：関市わかかさプラザ  
主催：岐阜運輸支局、関市  
協力：岐阜乗合自動車(株)  
参加者：関市立田原小学校4年生 73名

### <実施概要>

公共施設において、車いすやアイマスクを使って走行又は歩行体験を行うことにより、体の不自由な方のサポートについて学ぶとともに、公共の場におけるバリアフリー設備について学ぶことを目的として実施しました。



### <受講者の感想>

- ・車いすでバスに乗る際のスロープが一人では大変だと思った。
- ・アイマスクの体験をして、目が見えない人の大変さがわかった。
- ・バスには色々な工夫がされていることが分かった。